（様式２）

議員行政視察報告書

議 員 名	あべなお
視 察 地	埼玉県川口市
視察年月日	令和８年１月 14 日

視察内容（目的・具体的内容・成果等）

●川口市医療センター

外国人対応の現状について

１）市として多言語化の取組は行っているか

院内の案内は７か国語で対応・入院時のアナムネや日常生活のルール等も全て７か国語で書いたものを使用（添付の通り）、病棟にはポケトークを配付し対応している。患者側からスマホアプリを使い会話することも多い。

２）看護学校の実習における外国人対応について

上記の７か国語の資料の他、イラストを使って対応している。なるべくその患者の生活習慣に合わせた看護が臨床でも提供できるよう実習においてもヒアリングを積極的にするようにしている。

本市においても、今後外国人人口が急激に増加し受診者の外国人割合も大きく増加することが予想される中で多言語対応や医療費の未収問題と公的病院の収益化といった多くの課題が今以上に深刻になっていくことが予想される。職員の負担がいきなり増えることのないよう、早急な対策を講じ医療体制の環境整備に努めていく必要があると感じた。

（様式２）

議員行政視察報告書

議 員 名	あべなお
視 察 地	埼玉県
視察年月日	令和８年１月 15 日

視察内容（目的・具体的内容・成果等）

●埼玉県ブランド農産物について

１）事業の流れについて

選定については県オリジナル品種を中心に推進しており近年の異常気象や省力化について国や県の予算を活用しながらスマート農業を中心とした生産対策に努めている。PR についてはコロンバンやファミリーマートといった全国規模の企業とコラボするなど、販売先が県内のみに留まらないような施策を展開している。

２）今後の方向性

今年度から SNS の本格的な運用に力を入れており、PR 大使の活用の他、埼玉大学との連携等、民官学で一緒になって進めていく予定。

３）今後ブランド農産物は何を推進していくのか

県内の自治体が推進したいと考えている農産物を取り上げ、既存のブランド加工品（畜産等）と組み合わせコラボ商品を開発し既存ブランドの流通や知名度に乗って相乗効果を見込んでいる

４）梨やイチゴのブランド化にあたりどのような支援をしたか

生産技術支援により品質の安定・均一化を図り、首都圏のイベントや百貨店での催事にも積極的に出店した。有名店に使用してもらう為、積極的な営業活動も行った。

全国展開の企業とのコラボ商品や大手百貨店でイベントを行うなど、県内のみに留まらないターゲティングに感心した。本市はどうしても道内企業とのコラボや、地場のスーパーや農協等での販売が多く、高単価消費の客層が集う場所とは程遠いと常日頃思っていただけに、やはりマーケティングの勉強を市としてもしていかなければならないと改めて感じた。大学との連携についても旭川大学はまだ知名度もレベルも低く、政策提言するに至らないと考えることから、教育機関も含め市全体としての企画力の底上げに資する提案をしていきたい。

（様式２）

議員行政視察報告書

議 員 名	あべなお
視 察 地	さいたま市
視察年月日	令和８年１月 15 日

視察内容（目的・具体的内容・成果等）

●ヨーロッパ野菜について

１）ヨーロッパ野菜研究会（ヨロ研）が主体的に様々なイベントの企画をしてくれているため、市としては補助金を出す他、後方支援に徹している。

２）市としての関わり

事務局をヨロ研と市のどちらに置くかについて長らく協議を行っていたが、いずれ民間主体で自走してほしいとの思いから、市では事務局を担う事をしなかった経緯があり、結果としてそのことがヨロ研が主体的に動くことができるきっかけとなった。

３）コンテストについて

コンテストをきっかけに実際の商品化や給食のメニューになったりと市民にとっても生産者にとってもメリットのある事業となっている。

４）生産者との取組

県と共催で「地産地消ブランド農産物を味わう集い」の開催や百貨店や主要駅での販売会等を一緒に行っている

５）販路・消費拡大の手法について

市民向けに地元スーパーや庁舎内での販売に加え、県内・都内の百貨店でのイベント出店、大手菓子メーカーとのコラボ等を年間通して積極的に実施。

現在本市で行っていること、あるいは取り組もうとしていることの多くを既に 10 年以上前から実施しており、一歩どころかかなり先を進んでいる印象を受けた。生産者も若手が非常に多く、今年度の新規就農者は 26 名と聞き本市は確か 5 名程度のはずなのでとても驚いた。異業種からの挑戦が多く、そういった方でも受け入れる寛容な地域づくり、交流制度等少しだけお話を伺えたが、見習うべきところが多々あると感じた。新規就農支援施策について今後改めて学びに来たいと感じた。

（様式２）

議員行政視察報告書

議 員 名	あべなお
視 察 地	埼玉県桶川市
視察年月日	令和８年１月 16 日

視察内容（目的・具体的内容・成果等）

●道の駅べに花の郷おけがわ

１）事業の経過について

H26 年に市内農業者たちから「農産物の直売所がほしい」との要望が挙げられたことから、検討を開始した。

２）設置手法について

DBO 方式を採用。千歳のサーモンパーク等を手掛ける企業が子会社を設立し、指定管理者として運営している。

３）テーマや目的等について

地産地消の他、市内観光の拠点としての目的もあり、レンタサイクルの活用や自家用車で近隣のべに花染めを体験できる施設や宿場町としての歴史を伝える資料館に誘導する看板やパンフレットの設置もしている。インバウンドは想定しておらず、県内や隣接県からの観光客をターゲットにしている。

４）防災拠点として

敷地の約半分ほどが国の管理区画であり、そのエリアが防災拠点としての機能を持っており、備蓄品等もそこにあり。

平日にも関わらず大勢の道の駅目当てのお客さんがきていた。特に特産品のネギ売り場、地場の農産物を使ったパン売り場と地場産のやきいもコーナーが大人気で販売時間前から並んでいた。説明にあったように「農産物と六次加工品の直売所」が道の駅としての利用客のニーズであることがわかった。本市においては冬の農産物がないことが課題として挙げられるが、加工品を使用した名物グルメや６次産業化商品を置くことで年間を通して安定した集客と売上を見込めると感じた。桶川にはないものとして、本市には畜産もあることから、お肉を使った加工品の開発にも力をいれていくべきであると感じた。